
vol.17 東北大学理学部・理学研究科メールマガジン



東北大学 大学院理学研究科・理学部

vol.17 東北大学理学部・理学研究科メールマガジン

年度末を迎え、春の訪れとともに新たな季節の始まりを感じる時期となりました。皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。東北大学理学部長・理学研究科長の都築 暢夫です。

本学では3月25日に卒業式・修了式を無事に挙行することができました。

この大切な節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。これまで温かく見守り、支えてこられた保護者の皆さまにも深く感謝申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんには、これから新しいステージで、本学で培った知識と経験を活かし、さらなる飛躍を遂げられることを期待しております。

皆さんの前途が希望に満ちたものとなりますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、2025年度理学部・理学研究科の就職状況について、速報をご報告申し上げます。

学部卒業生（304名）は、進学者が227名と大多数を占め、就職内定者は24名となっております。官公庁（気象庁、厚生労働省、国土交通省など）や教育機関への就職のほか、東京エレクトロン、東北電力、東日本旅客鉄道、金融機関など多様な民間企業への就職が決まっております。

修士修了生（286名）は、就職内定者は140名、博士課程進学者は81名となっております。公的機関では各県庁、特許庁、防衛省、原子力研究開発機構などに就職しております。民間企業では、トヨタ自動車、ソニー、パナソニック、東芝、日立製作所などの大手製造業、キオクシア、東京エレクトロンなどの半導体関連企業、NHK、NTTドコモなどの情報通信企業、さらに金融・保険業界など、幅広い分野で活躍の場を得ております。

博士修了生（78名）は、就職内定者は49名です。東北大学をはじめとする国内主要大学、国立天文台、高エネルギー加速器研究機構、海洋研究開発機構などの研究機関でのポストに就かれ

るほか、台湾のASIAAなど海外機関への就職も見られます。民間企業では、JSR、第一三共、富士通、日本IBM、東京エレクトロンなど、高度な専門性を活かせる企業への就職が決まっております。

なお、3月末時点での就職先をまとめたデータは「2025年度就職先一覧（速報）」

（<https://www.sci.tohoku.ac.jp/juken/after-graduation.html>）でご覧いただけます。

本研究科の進学や就職に関する事柄は「親子で読む 理学部・理学研究科 進学・就職ハンドブック

（<https://www.sci.tohoku.ac.jp/career/handbook.html>）」にまとめておりますので、こちらもぜひチェックしてみてください。

今後とも東北大学理学部・理学研究科へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025年にウタツギョリュウ化石は、天然記念物に指定されて50周年を迎えました。それに伴い、カリフォルニア大学の藻谷亮介教授のもとに保管されていたウタツギョリュウの標本が約30年ぶりに帰還しました。（東北大学総合学術博物館所蔵）

目次

vol.17（2026年3月配信）

column 理学部・理学研究科同窓会による寄稿・コラム連載。

台湾近代地質学の父・早坂一郎先生の足跡をたどって

武藤 潤（地圏進化学講座 教授）

1. イベントのご案内
2. 理学部・理学研究科YouTube
3. 最近の研究トピックス（プレスリリース・研究成果から）

理学部・理学研究科同窓会による寄稿・コラム連載。

column

台湾近代地質学の父・早坂一郎先生の足跡をたどって

東北大学理学部
地質学古生物学教室同窓会

武藤 潤



地質学古生物学教室同窓会では、毎年発行の同窓会誌で教室の歴史や同窓生の活躍を紹介しています。2022年発行53号に掲載された早坂祥三先生のご遺稿を通じて、お父上・早坂一郎先生の功績が改めて後生に語り継がれる契機となりました。

早坂一郎先生（1891～1977）は、東北帝国大学理科大学地質学教室の第1回生として1915年に卒業後、台北帝国大学教授として台湾近代地質学の礎を築き、今も「近代地質学の父」と称されています。台湾で発見された化石サイは「早坂サイ」と命名され、世界の古生物進化研究において重要な役割を果たしています。近年、先生の業績を紹介する書籍『百年臺灣大地：早坂一郎 與近代地質學的建立和創新歴（歴の旧字体）程』（百年の台湾の大地—早坂一郎と近代地質学の成立）も刊行され、再び注目が集まっています。

2024年夏には、台湾の国立自然科学博物館の研究者2名が本学を訪れ、学術博物館の関連資料を見学しました。現在、私はその研究者の案内のもと、大学院プログラムの巡検で学生たちと台湾各地の地質を巡っています。台南市の左鎮化石園區（化石博物館）では、先生が現地の人々とともにこの地で古生物研究を進めた歴史を学び、先生の足跡を身近に感じました。早坂先生が築いた台湾との学術的なつながりは、未来の研究者の卵たちとともに、今も静かに受け継がれています。

<参考>

早坂先生のご功績：

https://www.museum.tohoku.ac.jp/past_kikaku/ammonoidea/tohokuUniv/tohokuUniv4.htm

東北大学理学部 地質学古生物学教室同窓会

◆ igps-alumn@dges.es.tohoku.ac.jp

1. イベントのご案内

これから開催される東北大学関連イベントをご紹介します。

【Web,現地】2026年度東北大学入学式（4.3開催）

2026年4月3日（金）

- ・ 第一部（対象：学部新入生）：9:45-10:20
- ・ 第二部（対象：大学院新入生）：11:30-12:05
- ・ 会場：[ゼビオアリーナ仙台（仙台市アリーナ）](#)

[> 詳しくはこちら](#)

【現地】東北大学植物園限定開園（4.1-11.29）

各種の対策を実施しているものの、天然記念物『青葉山』範囲内での野生動物（イノシシ等）の活動が継続しており、入園者の皆さまの安全確保が困難な状況にあるため、昨年度と同様、イノシシの活動を注視しながら、公開区間を限定した開園を実施いたします。

通常の開園と異なりますので、詳細を必ずご確認ください・ご了解の上、自己責任でご入園ください。天然記念物の一般公開にご理解とご協力をお願い申し上げます。

- ・ 開園日：2026年4月1日（水）－11月29日（日）
- ・ 休園日：月曜日（祝日の場合は翌平日） 夏季休園・臨時休園あり
- ・ 入園時間：10:00-15:00（退園は16:00まで）
- ・ 開園場所：前庭、ロックガーデン周辺、展示室、観察路1～5
- ・ 入園料：無料

[> 詳しくはこちら](#)

2. 理学部・理学研究科YouTube

理学研究科YouTube チャンネルからピックアップしてご紹介します。

2023年度オープンキャンパス模擬講義から、中村美千彦教授（地球科学系 地球惑星物質科学科）「地球の調べ方：実験岩石学入門」です。

ぜひご覧ください。

地球の調べ方： 実験岩石学入門



3. 最近の研究トピックス（プレスリリース・研究成果から）

2025年12月～2026年3月に理学研究科から発表した [研究トピックス](#)をご紹介します。

2025年12月23日

東北大学と富士通、「NanoTerasu（ナノテラス）」の測定データに因果発見AIを適用し、超伝導発現メカニズム解明に繋がる因果関係を自動抽出

地球環境問題を解決する新規機能性材料の研究開発を加速

[> 詳しくはこちら](#)

2025年12月24日

機能性流体を用いた誘発地震抑制技術の開発に成功

—地震を起こす断層滑りにブレーキをかける地震抑制技術の黎明—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月7日

ガラスはなぜゆれて、なぜこわれ始める？

—分子のゆれから降伏まで、ひとつの理論でつなぐ—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月9日

なじみの群れでは、仲間同士の判断がそろう

—危険が迫る瞬間、メダカ全員の判断が一致する現象—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月14日

海洋下のマントルに由来する岩石中に有機物を発見—上部マントル中での生物が

2026年1月15日

植物のストレス反応スイッチの受容体を狙い撃ち制御

関与しない有機物合成の証拠—

[> 詳しくはこちら](#)

—二面性をもつ分子による新戦略—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月19日

新開発極微非線形分光法で観る1億分の1メートルの分子集団の世界 —不均一な材料表面における分子メカニズムの解明へ—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月19日

スーパーコンピュータ「富岳」で台風の発達期を初めて100m刻みで再現

[> 詳しくはこちら](#)

2026年1月28日

火星で起きた「季節外れ」の水消失 ——ロケットダストストームで水が宇宙へ失われる—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月3日

青森県東方沖の地震に伴う調査航海の実施について

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月6日

五角形のケイ素 π 電子系化合物の合成に成功 —全ケイ素置換シクロペンタジエニドの登場—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月10日

木星を取り囲むプラズマリングの歪みを測定 —従来手法の制約を克服する新しい観測手法を確立—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月10日

動物は地球にこの先いつまで生存できるのか？ —過去の生物多様性変動パターンから遠い未来を予測する—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月12日

爆発的に星が誕生する合体銀河の中心で暴れ出したモンスター

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月18日

千島海溝沿いでの「ひずみ」蓄積を海底観測で確認 —北海道沖で17世紀以来の超巨大地震の再来が切迫している可能性—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月17日

日本の天候を揺さぶる熱帯の巨大雲群マッデン・ジュリアン振動の移動を左右する鍵を解明 —数週間先の天候予測の精度向上に資する着眼点を提示—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年2月19日

2026年2月26日

地球寒冷化事件の規模増加による動物種と世界人口の減少パターンの違いが明らかに

[> 詳しくはこちら](#)

簡単！カーボンナノチューブを水に分散
二酸化塩素で表面を穏やかに酸化し、高い導電性を維持

[> 詳しくはこちら](#)

2026年3月3日

小惑星リュウグウ試料の磁気測定から探る初期太陽系の磁場環境

[> 詳しくはこちら](#)

2026年3月13日

忘れる記憶、残る記憶。その違いを解明—麻酔や脳震盪で起こる「部分的な記憶喪失」の仕組み—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年3月17日

メタ分子を用いてマイクロ波のマジックミラー効果を室温で実現—新奇キメラ準粒子「磁気カイラルポラリトン」の巨大な人工移動媒質効果が鍵—

[> 詳しくはこちら](#)

2026年3月23日

すばる望遠鏡の次世代補償光学の試験観測を開始

[> 詳しくはこちら](#)

2026年3月23日

記憶を生み出す脳細胞の再編成を視る—ストレスがシナプス構造を書き換える仕組みを明らかにした技術革新—

[> 詳しくはこちら](#)



理学教育研究支援基金

理学部・理学研究科の教育研究のため

ご支援をお願いします

詳細は [こちら](#)

最後までお読みいただき、ありがとうございました。本メルマガでは、皆さまに気軽に楽しんでいただけるような内容を心掛けております。差し支えなければ、今後も引き続きメルマガをお楽しみいただければと存じます。

個人情報の取得については、[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。

もしメルマガの送信を希望されない場合は、[\[購読登録・解除\]](#)をご確認ください。

[配信元]

東北大学理学部・理学研究科 広報・アウトリーチ支援
室

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

E-mail : sci-koho@mail.sci.tohoku.ac.jp

[購読登録・解除]

メール配信の停止をご希望の方は、お手数ですが [こちら](#)
からお手続きください。

